

## 平成25年度 第2回八尾市産業振興会議 議事録

日 時	平成25年10月28日(月) 午前10時00分～12時00分
場 所	八尾商工会議所会館 3階 中会議室
出席者	<p>&lt;委員&gt; 加藤委員、川江委員、周防委員、須山委員、鶴坂委員、村本委員、中浜委員、林委員、東口委員、藤原委員、文能委員、山崎委員、山田委員、横山委員 計14名</p> <p>&lt;事務局&gt; 村上部長、尾谷理事、馬場次長、小谷参事、徳光室長、市川課長補佐、主井係長、阪口係長、古賀係長、松尾 計10名</p> <p>&lt;オブザーバー&gt; 八尾商工会議所・川野課長 計1名</p> <p style="text-align: right;">総計25名</p>

－事務局による司会で次第に沿って進行－

### 1. 開 会

・産業振興会議委員17名のうち、出席者14名、欠席者3名であり、八尾市産業振興会議規則第3条に規定する過半数の委員の出席により、会議が成立している旨を報告。

### 2. 配布資料の確認

### 3. 経済環境部長あいさつ

### 4. 議 事

－座長による議事進行－

#### (1) 産業集積検討部会報告書について

座 長：はじめに文能部会長より、報告書について発言いただきたい。

副座長：部会にて本報告書を取りまとめるにあたり、委員をはじめ、事務局の皆さんにご尽力いただいたことへのお礼を申し上げる。今回、非常に大きなテーマである「産業集積の維持・発展」について様々な議論を行ってきた。はじめは、委員の皆様にご議論いただき、論点を整理する作業から始まった。「事業・技術の承継」、「事業者間等の連携」の2つのテーマを中心に据え、これからの八尾の産業振興を考える上で「産業集積の維持・発展」をめざしていくことが非常に重要であるとの認識のもと、議論を進めた。特に「事業の承継」については、部会委員の中に実際に事業承継を経験された方がいた。親族から事業を承継された方をはじめ、中には、第三者からお店を譲っていただかれた方もいた。「事業承継」が今年の中企業白書で取り上げられているように、解決すべき大きな課題であると認識しているおり、このような中で、報告書を作成するにあたり、委員の皆さんから実体験に基づいた非常に有益なご意見を数多く頂戴したことは大きな助けとなった。時には和気あいあいと、時には、立場の違いから少し意見が対立したこともあった。報告書としては、一般的な報告書とは違う、委員の皆さんの想いの詰まったものとなった。これは委員の皆さんが仕事の忙しい

中、「まちを良くしよう」という八尾市への熱い想いを持って、熱心な議論をかわしてきた結果であると考えている。これから本体会議の委員の皆さんに議論いただくわけではあるが、部会の想いとしては、報告書の文字を追うだけではなく、ここに書かれてある想いも読み取っていただきたいと思っている。八尾が好きだから、八尾を愛しているからこそできた報告書であると認識しており、ここに書かれてあることを実現するには、カタチだけの支援に終始せず、八尾に愛着を持った人づくりの重要性を十分に加味し、これからの八尾のまちづくりが展開されることを期待している。

座長：それでは、報告書の内容について、事務局より報告をお願いします。

#### 事務局より、資料に沿って、産業集積検討部会報告書について説明。

##### 【質疑応答・意見交換】

座長：ただいまの事務局の説明に対し、質問や意見を頂戴したい。

委員：事前に資料を頂戴し拝見したが、25、26 ページのように、委員から出された様々な角度からの意見を載せている点が非常に良いと思った。例えば、連携を促進するための取り組みについては、「様々な切り口で機会を提供したほうが良い」という意見と、対立する意見である「課題やテーマなど、まとを絞った機会を提供したほうが良い」という意見の双方が載っている。この報告書を見れば、賛否両論あることを踏まえた上で、しっかりと議論を重ね、方向性を導き出していることがわかる。部会委員の皆さんが、八尾の産業振興にとどまらず、地域社会の発展まで考えた議論をされていることがよくわかった。

委員：もしかしたら議論され、すでに実践されているかもしれないが、商業関係で言えば、市外のエリアとの連携の視点はどうか。天神橋筋商店街では、天満宮と連携して古い井戸を復活させて、商品開発を進めているところもある。規模などが違うが、成功事例を取り入れるのもひとつの方法だと思う。工業関係についても、緑化の視点で取り組むのはどうか。緑化や里山活動などを通じて、地域の方々とのつながりを持つことも大切ではないか。企業の地域貢献という観点で、地域にどんな工場があるかを知ってもらうためにも、小学生などを呼んで工業見学するなどもいい手段である。身近なところで身近なものを作っていることを知ってもらう活動も大切である。

事務局：地域主体となって、子どもを対象として地域にある工場を見学する取り組みを行っているところもある。また緑化の取り組みなどはまだまだ進んでいない部分があるので、参考にさせていただきたい。

委員：地域との連携という話があるが、八尾の一時という言葉があるように消費者は敏感で、口コミが大事である。しかし、情報が中々、入ってきていないように思う。先日、開催されていた食イベントをはじめ、商店街のイベントもすごく賑わいがあるし、様々な PR 活動しているとは思いますが、もっと積極的に情報を流していただきたいと思う。消費者としてもっとたくさんの機会を頂戴できればと考えている。しいては、こうして消費者を巻き込んでいただくことによって、にぎわいが創出され、「住んでみたいまち」と思えるようになるし、まちの活性化が実感できると思う。

委員：事業継承や連携でもそうだが、産業を発展させていくという観点に立って考え、自社ではインターンシップや工場見学の要請があれば積極的に受け入れを行っている。私たちの企業はものづくり企業なので、ものづくりの担い手が少しでも増えるように、子どもたちからものづくりに関わる機会やものづくりの重要性について考える機会ができるように教育を考えていくべきだと感じている。私は昔、学校の先生から日本は資源が少ないから、海外から材料を仕入れ、加工し、付加価値

のついた製品をつくることにより国を豊かにしていかなければならないと教えられた。ものづくり企業を営む立場としては日本が経済的に豊かになった今なお、ものづくりの重要性を捉え、後継者ができるような環境づくりが求められていると思う。

委員：消費者の立場として、様々なイベントの PR もまちの中心部では行われているのかもしれないが、私自身が住んでいる地域では中々、情報が入ってこないように思う。山手の生活の利便性の向上も考えていくべき課題であると思う。

## (2) その他報告事項について

### 事務局より、参考資料、今後のスケジュールについて説明。

座長：12月に委員の皆さんを代表して市長に本体会議の報告書を提出させていただく。市長とざっくばらんな話をさせていただく機会でもある。市長も産業振興に関しては思いをお持ちであると認識しており、報告書についての意見や質問、また市長に伝えてほしいという産業への想いなどがあれば頂戴したい。

委員：「創りあう」という段階に入っていく際に、信頼関係が非常に大切になってくる。「創りあう」段階に至るには何を作りあうのかという課題を出し合う作業が必要になってくる。市民、商業、企業、大学を巻き込んで、このまちで、八尾でどんな産業を作っていくのかという議論の場が必要だと思う。本当に必要なものは、消費者や市民など、使う側が知っており、課題を見つけ出す場が必要ではないか。様々な視点でものを考えることで、いいアイデアが出てくる。そういった部分の議論の経過を報告書に追加していただきたい。

座長：27 ページでそういった視点は記載されているが、「創りあう」段階では、一步踏み込んで目標を共有化するような作業が必要でゴールの設定が重要となってくる。議論やゴールがあいまいであれば、途中で上手くいかなることがある。違う立場、違う考え方の人々が信頼関係のもと、その立場、考え方を越えて、様々な議論を重ね、十分に議論を尽くした上で同じゴールをめざすことで、はじめて「創りあう」ことができる。これは、商業、工業共通のものであると思う。ものづくりについては、もっと技術的な部分や費用面でも、議論を尽くさないと難しいのかもしれない。藤原委員の意見をどこかに追加させていただく。

委員：今後、商店街のイベントを開催する際は、消費者をはじめ、各団体にも積極的に動員をかけるようにしたいと思う。地域との連携という点で言えば、高齢クラブをはじめ、ゆるやかな連携を進めているところである。また事業承継という話では、後継者が承継したいと思えるようなお店づくり承継しやすいような環境づくりが必要であり、もっと勉強しないといけないと感じた。

座長：イベントの運営などで、商業者が消費者の方に協力していただいたら、反対に商業者の方も自分たちもその期待に応え、頑張らないといけないという気持ちも生まれる。こうした外部の方から気づきを与えられることが大事である。

委員：連携の話でいえば、これから場の提供などの仕組みが出来上がり、連携の成功例などができればと考えている。先ほど企業の緑化活動の話があったが、今年度10月に KES (環境マネジメントシステム) を取得した。八尾は住工混在しており、地域で住民とのトラブルなく、共存していくには KES の取り組みをはじめ、3S 活動を行っていくことが必要である。3S 活動は何のためにやっているのかというと、社員の意識改革のために行っている。KES は企業の意識改革のために行っている。私のところでは週一回、地域の清掃をはじめ、産業廃棄物を減らす取り組みなど、様々な努力を行っている。こういった取り組みを企業として行うことで、意識が変わってくる。八尾市の

事業である「八尾ものづくりカレッジ」などのセミナーをはじめ、企業や大学が交流できる場から連携の実績が出来上がっていけばうれしい。

委員：2年間、産業集積検討部会で様々な議論をしてきたが、課題解決に向けた土台がこの報告書を見て、出来上がってきたのではないかと感じている。八尾に常光寺があることは知っているが、よくよく考えると八尾を知る機会がなく、知らないことが多いので、もっと知りたいと感じた。商工、市民、行政と今までカテゴリーとして分けられていた人々が一同に集い、課題を出し合う場がこれからは必要ではないかと感じた。

八尾の良いなと思う部分を様々な人々と共有して、大阪、ひいては関西全体に広げていけたらと感じた。また私自身もそういった活動を展開していこうと思っている。

委員：この2年間、皆さんとともに話し合ってきたことが、振り返ってみると、自分の会社にも取り入れることができたと感じた。事業承継の話で言えば、昨年、ホンダのお店を引き継いだ。また技術の承継で言えば、10月にイタリアのベスパの販売を大阪では第1号店として始めることができた。これはベスパの持つ技術を会社の技術者に伝えていけるようにという思いで行った。

他にも事業・技術の承継で言えば、八尾市以外の教習所ともバイクの乗り方講習などで共同イベントを開催したり、様々なところと連携することができた。その中で、同業者の方とのつながりができたり、知り合った事業者の物品を発注したりと仕事の関係も構築することができた。様々な方々と交流する中で、連携をはじめるときに産業振興会議で学んだ知識が本当に役に立ち、経営に生かすことができたと感じている。

委員：先日、ファミリーロードのイベントであるお速夜市に参加したが、最初、集合場所である八尾神社も知らなかった。しかし、様々な歴史を聞く中で、すごく歴史的に深く、いい神社だと感じた。八尾にここ何10年と住んでいるがまだまだ知らないことがたくさんあり、まち歩きをする中で、八尾はすごいところだと感じたし、ますます八尾をもっと知りたいと感じた。そういった八尾の魅力をもっとたくさんの方に広めることができたらとも思った。

帰りに商店街にあるお店でパンを買って、お肉屋さんでコロッケを買ってコロッケパンにして食べた。すごくおいしくて、お店に来たお客さんにも勧めて、八尾の商店街にあることを伝えた。もっとこういった魅力をPRしていければとも考えている。

消費者の方、周りで商いを営んでいる商業者を含めて、もっと商店街の良さを広めていける活動を行っていききたいと思う。

委員：報告書を見て、自分なりに八尾市がどうなっていけばいいのかを考えた。やはり愛着の持ちやすい特色のあるまちづくりを進めることが大切ではないかと思う。新しいJR八尾駅舎が完成したが、立派なものになったと思う。しかし、昔の駅舎は古かったが、同時に「八尾」に帰ってきたということを実感させるような人々の歴史などを感じる懐かしいものであった。八尾市の産業が発展しても、どこにでもある無機質な大都市というものをめざすのではなく、つまらないまちにならないように「八尾らしさ」が残るような特色のあるまちづくりを進めることが望ましい。

委員：経済産業省で来年度、実施予定の制度で、事業承継や人材育成などでお役立ていただけるような制度を紹介したいと思う。商工業共通の制度で、小規模の事業者を対象にした人材育成することを支援する制度がある。また商業関係でいえば、地域商業自立促進事業というものがある。このように支援制度も様々なあるので、適宜、皆様に情報提供していきたいと思う。

副座長：お願いしたい点が2つある。1つは報告書をもとに施策の実行にあたると思うが、金融機関との連携を例にとると、制度などのカタチを構築するだけではなく、成果が出るように、連携先の金融機

関の方々へ、委員の皆さんの思いなどを伝えて、やる気にさせていただきたい。

もう1つは、一昨年の報告書の提言をもとに構築していただいた施策のフォローもしっかりと行っていただきたいと思います。ものづくりの面白さを伝えるためのDVDの活用方法や、子どもたちの反応などを報告いただきたい。先生、生徒、その親を巻き込んで、教育現場に産業の重要性について理解してもらうためには、継続的にDVDが活用されるようにフォローするべきである。委員の皆さんの思いをしっかりと実現していくことは、行政に非常に苦勞を掛けることが多いと思う。しかし、議論された内容は個人ではできないこともあり、八尾市の力をお借りすることが必要と思うので、委員の皆さんの思いをくみ上げ、実現に向けて頑張ってください。

委員：商業団体の代表として、出席しているため、地域商業者に産業振興会議で議論されたことを伝えなければならないという使命がある。非常に素晴らしい意見が出ているので、ぜひこの会議で出た意見や報告を商業者にわかりやすく伝える要約したものを考えていただけないか。

事務局：DVDに関しては、先生方に対して利用状況等のアンケート調査を考えている。またその結果をこの場で報告させていただければと思う。また林委員の提案に関しても考えたいと思うので、またご相談させていただきたい。

座長：2年間、このメンバーで様々な議論を行ってきたので、良い関係ができてきたように思う。また行政だけがやるのではなく、委員の皆さんで八尾市のために協力してできることも積極的に行動していきたいと思う。文能委員もおっしゃったが、仕組みを作ってカタチにすることは非常に素晴らしいことではあるが、そこに魂を入れる作業がとても大切で、需要を掘り起こしていく力が必要である。行政は、効果検証などが行われ、構築した制度を利用率などが低ければ、せっかくいい仕組みを作っても次の予算どりができなくなる。山田委員がおっしゃったように、何か成功事例など成果をどんどん作っていかないと事業を継続することができない。制度を構築する前に需要の掘り起こしも大切である。

本日、様々な意見を頂戴したが、その意見を反映させていただいた上で提言書は市長に提出させていただく。今後の報告書の修正作業については、座長ならびに副座長、事務局のもと進めさせていただいてよろしいか。【異議なし】

一任いただいたということで、意見を反映したのち、提言書を提出したいと思う。

## 5. 産業政策課長あいさつ

## 6. 閉会

以上